

視察ご報告



- 平成19年
 - 10月 3日：千葉県市川市
 - ITを活用した行政サービスについて
 - メディアパーク市川について
 - 10月 4日：東京都西東京市
 - 市民参加条例について
 - ：神奈川県相模原市
 - さがみはら都市経営ビジョンについて
 - 10月 5日：東京都三鷹市
 - 安全・安心まちづくりに向けた取り組みについて
 - ：東京都三鷹市
 - 地方自治情報化推進フェア2007(池袋サンシャインシティ)
 - 10月11日：東京都千代田区(総務省)
 - 公営病院の経営健全化に向けた今後の法整備について
 - 国民保護計画の運用にあたっての国、県、市の連携について
 - 中核都市に期待される役割について
- 10月12日：東京都武蔵野市
 - コミュニティバス「ムーバス」について
 - 子育てSOS支援センター事業について
- ：東京都江東区(キッズニア東京)
 - キッズニアの教育的効果について
- 平成20年
 - 2月13日：福岡県八女市
 - 八女市長ローカルマニフェスト
 - 2月14日：(社)広島県就労振興センター
 - 障害者の自立支援(一般就労)
 - 2月15日：鳥取県三朝町
 - 国民保護計画
 - 4月10日：千葉県市川市
 - 市民活動団体支援制度(1%支援制度)
 - コミュニティバス
 - 市民まちづくり債
 - 地域ポイント制度「いちかわエコカード」
 - 4月11日：東京都世田谷区
 - 知的障害者就労支援センター すきっぷ

政策研究テーマ

コミュニティバス

次世代交通機関として地域密着型のコミュニティバス導入にむけて、様々な観点から問題点を調査研究し快適な都市生活の実現を目指します。

快適な市民生活の確保(生活騒音について)

社会問題化している生活騒音を予防から解決まで、多くの事例を参考に研究します。

循環型社会への移行

環境利権とまで言われている今のリサイクルやごみ問題を今一度検証し、より良い循環型社会構築を目指します。

■コミュニティバスについて

これまでコミュニティバスについて西宮市担当局と議論したり、他都市のバス行政を視察するなど、政策研究項目の中でもより深く研究してまいりました。その過程をふまえて現時点で私の思うコミュニティバス導入への課題は、採算性と地域機運です。

採算性とは文字通り、黒字運行できるかどうかという課題です。これは、昨今の社会情勢や行政の財政状況が多額の赤字を抱える公共事業を認めない時流にあり、行政主導の運行を開始してしまうと採算が見込めなくなっても、民間企業と違い撤退しにくいという懸念があります。この懸念を払しょくする手段としては、運行開始する前に赤字が一定期間継続すると運行中止すると決めておくことにより、ある程度の防止につながりますが、例えば運行地域の各種団体などが市長選挙の支持条件に当該路線を継続する

地域青年団体

いま現存する独立採算の取れる地域青年団体は市内に生瀬青年団と越木岩青年会の2団体を残すのみとなりました。地域コミュニティにとっても西宮市の将来にとっても青年世代の育成は欠かせないと考えます。地域力UPの原動力として地域青年団体が市内各所で活躍できる時代が来たとき、西宮市のコミュニティはさらなる発展を遂げることと確信しております。

障害者就労

ノーマライゼーションに基づき、障害のある方の福祉的就労の充実はもとより、一般就労への取り組みを推進する施策を研究します。

※ノーマライゼーションとは障害者等が地域で普通の生活を営むことを当然とする福祉の基本的考え。

ように要望したりするなどの不安要素は拭きません。

そこで、重要となるのが当該地区の機運です。コミュニティバスはその名の通り運行地域のコミュニティで育てていくということが重要になります。当該地域住民が自ら利用しやすいバス路線を考えたり、出来る限りバスを利用するなどの努力が不可欠となります。

運行地域の新たなコミュニティ創造として成功できればコミュニティバスの導入は大成功ということなのでしょう。

全国的に見てもコミュニティバスの成功例は少ないのが現状です。しかし、その一方、高齢社会に突入し、超高齢社会も近い将来に訪れるという背景にコミュニティバスの役割は重要になってまいります。今後も導入実現に向けて研究を続けていきます。



西宮の元気・西宮の明日を担う原動力となるべく活動中!

I ♥ NISHINOMIYA

吉岡政和 がんばるリポート

よしおか まさかず



自由民主党公認 西宮市議会議員 吉岡政和

- 昭和49年6月17日生まれ
- 西宮市立生瀬小学校卒業
- 西宮市立塩瀬中学校卒業
- 西宮市立西宮高等学校卒業
- 近畿大学商経学部経営学科卒業
- 平成11年4月より、中山正暉建設大臣(当時)の下で政治を学ぶ
- 平成19年4月西宮市議選挙において4,041票を獲得し初当選(45名中6位)

吉岡政和の基本政策

- 1.人と自然にやさしい調和のとれた豊かなまちづくり
- 2.安心して生活できる福祉の充実したまちづくり
- 3.明日を担う青少年の健全育成と文化を育むまちづくり

ごあいさつ

平成19年6月11日に4041名の市民の期待を受け、初登庁させていただいてから早1年が経過しました。その間、初めての事ばかりであったという間に今日になり、皆様に活動のご報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。

この1年間「皆様からの期待を信頼に変える」を目標にかかげて全力疾走してまいりました。初当選から今日までの本会議場での発言や議員活動を一挙ご報告させていただきます。

議員報酬条例改正提案

阪神大震災からこれまで西宮市議会は、報酬の日割り制度がなく半月ばで任期がかわるために、初当選組と引退・落選組にそれぞれ満額支給されてきました。過去3回の改選時毎にこの問題が指摘されてきたが放置されてきた。そこで今回、新人の一人が日割り差額(10日分)の受け取りを拒否した。市は規定に定められた支給なので返金を認めることができず(条例上)、議員は寄付行為が法律により禁じられているために正式に市庫に返金することはできない。そのため、そのお金は当該議員に渡ったこととして法務局に供託されました。そんな一連の流れを見て、現実には市庫に返金することができないのであれば、それらのシステムそのもの(条例)を改正すれば抜本的な解決になると考え、同期の議員3名(大石議員・篠原議員・坂上議員)に賛同を求めて議員発議の条例改正案を議会に提案をした。議員提案は4名連名で提出することが定められているため、私を含めて4名揃った時点で提案に踏み切りました。議員の役割は行政のチェックや行政側から提案された条例などを決議することが大方の見解ですが、条例提案も議員の権利としてあります。新人のみが条例改正案を提案することは極めて異例で、西宮市始めて以来と聞きました。また、新人が何を生意気にいった声もありましたが、一年生議員であろうと何年生議員であろうとも議員の責務や役割は何ら変わるものではありませんし、先輩議員のご機嫌うかがいするために皆さんから票をいただいた訳でもございません。そんな意気込みで議長に提案書を手渡し、記者会見を行いました。

その結果、この問題は新人や引退・落選議員だけの問題ではなく議会全体の問題であると先輩議員の皆さんにも理解して頂き、全会派連名の議員提案となり、本会議におきまして全会一致で可決されて、震災以降続いてきた報酬二重取りが解消されることになりました。



▲新聞で報道された記事



▲TV報道された模様(「ニュースゆう」平成19年6月22日(金))

無料ダウンロードできます!

*機種によっては対応できない場合がございます。



こちら



ご意見承ります!

新聞へのご意見、地域への改善要望、吉岡宛へのご意見etc何でもお送り下さい。

メールアドレス i-love-nishinomiya@beige.plala.or.jp

連絡先

吉岡政和(活動事務所)

〒669-1102 西宮市生瀬町1-12-17(芦辺屋さん2F)

電話：0797-20-5055 FAX：0797-86-2649

メールアドレス i-love-nishinomiya@beige.plala.or.jp

ホームページ http://www.yoshiokanavi.jp/



吉岡政和の議会報告

平成19年6月議会

Q. 西宮市における特別養護老人ホームの待機者解消に向けての取り組みについて市の考えは？

a. 本市における特別養護老人ホームの待機者数は、平成19年3月末現在、1,566人でございます。そのうち在宅におかれて、緊急度の高い待機者は219人でございます。このような状況の中で、本年4月に100床の特別養護老人ホームが開設され、さらに、本年度中の開設に向けて、山口町に50床、浜脇町に70床の特別養護老人ホームの建設が進められており、市内の特別養護老人ホームの整備数は、14カ所、1,165床となります。また、平成20年度には、地域密着型サービスである入所定員29人の小規模特別養護老人ホームを南部地区4カ所、合計116床の整備に向けて法人を募集しております。特別養護老人ホームにつきましては、平成18年度から20年度までの3年間の第3期介護保険事業計画に基づきまして、年次的に施設整備を行っているところでございます。また、在宅で緊急度の高い待機者につきましては優先的に入所できますよう、県の入所コーディネートマニュアルに基づきまして、運用を図っております。

Q. 次期介護保険事業計画の策定に向けてどのような取り組みをされていくのか？

a. 次期介護保険事業計画につきましては、平成20年度の策定に向けて、学識経験者や事業者などで構成される計画の推進会議を本年7月に設置いたします。この会議で、現行の計画のすべての施策につきまして、進捗状況の検証、課題の分析を行うため、次期計画の策定に向けて準備を進めているところでございます。策定に当たりましては、保健、医療、福祉のより強固な連携を図りまして、高齢者の方々が住み慣れた地域で健やかに、そして安心して日常生活を送れるまちづくりを目指して、取り組んでまいりたいと考えております。(市長答弁)

以上質問2項目についての要望

介護予防や地域在宅ケアの充実が理想かもしれませんが、帰るべき家や家庭での介護力がない多くの高齢者が存在するという現状や、地域ケア施設、マンパワーが十分とは言えない在宅介護の体制の現状では、一層の施設サービスの充実を図っていかねばならないのではないのでしょうか。また、地方分権を推進する観点や、本市は平成20年度から中核市への移行を目指しているという観点からも、国や県の施策に従うだけではなく、地域の実情を踏まえた上で、実態に見合った適切なサービスが市民に提供できる西宮市独自の計画を作成し、この阪神間における介護先進市を目指していただきたい。

Q. 高校選抜制度が変更されることで、西宮市北部の塩瀬中学校や山口中学校の生徒にはどのような配慮を考えているのか？

a. 複数志願選抜における出願時の配慮として、中学校を起点とした通学時間が1時間半以上かかる高校については、あらかじめ第1志望、第2志望以外のその他校の対象から除外することができます。しかし、そうすることで北部地域の生徒は選択肢が少なくなる状況が生じます。このことを踏まえ、新しい選抜制度の導入を県教育委員会に要請した際にも、北部地域の生徒に対し、西宮学区以外の高校を志願できる自由学区の設置などの配慮を要望してまいりました。その後、県教育委員会からは、西宮学区に新たな自由学区を設置する必要がある

かどうか、平成19年度中に検討し、発表すると聞いております。市教育委員会としましても自由学区の設置は、北部地域の生徒の選択肢を広げることに繋がります、通学の利便性からも評価できるものと考えております。今後も、近隣市の理解を得ながら、県教育委員会と積極的に協議を進めてまいります。

要望 私たち北部の市民は、西宮市の境界の壁にぶつかることが多々あります。今回のケースもまさにその壁に当たっているわけではございますが、今回の制度改正の趣旨が生徒の学校を選択肢を広げるといふ点を踏まえるものであれば、西宮市北部の生徒は、近隣市の宝塚市や三田市、そして神戸市北区などの高校も選択できるように、市におかれましては、引き続き一層の御努力をしていただきたい。



Q. 生瀬地域のコミュニティバス導入について市の考えは？

a. 今後、高齢化社会が進展する中で、高齢者など交通弱者の移動手段の確保はまちづくりを考える上での重要な課題と認識しております。コミュニティバスについての本市としての考え方がありますが、新たなバス路線の導入につきましては、事業の採算をとることが非常に難しく、赤字が生じた場合の費用負担の方法や、一旦運行いたしますと休止することが難しいことなどの課題がございます。このため、コミュニティバスの導入は、これらのことを十分に踏まえ、慎重に対応することが必要であり地域の皆様が主体となり取り組むバス路線の可能性について引き続き検討してまいりたいと考えております。つきましては、この検討を行うための基礎資料とするため、今年度、北部地域においてアンケートによる交通利用実態調査を行うこととしております。

要望 この地域にはコミュニティバスの必要性が非常に高いという現状もございます。生瀬の市民は、このたび話題になっております南北バスの恩恵を受けることもございません。北部バス問題という大きな課題の中で、南北バス問題が解決されることで北部地域のバス問題がすべて解決したという解釈にならないように、また、生瀬地区は、西宮市の端っこの地域で、特に目立つ産業もなく、存在感が薄いところでもありますが生瀬は紛れもなく西宮市でございます。どうか見放されることなく、市におかれましては引き続き検討していただきたい。

Q. 地域青年団体について教育委員会はどこまで把握され、またどのような関係を持ち、その活動に対してどのような考えを持ち、さらには将来的に支援策など検討されているのか？

a. 生瀬青年団や越木岩青年会は自立した地域青年団体として、秋祭りにおけるだんじりの運行など、地域のために自主的に活動を展開される団体であると承知しております。子供を対象にした青少年愛護協議会の活動や文化祭などの地域活動に積極的に参加され、社会貢献されておられることについても、

教育委員会として認識しているところでございます。地域青年団体が実施されます個々の事業につきましては、事業の後援でありますとか、使用料の減免規定に該当する場合はそれを適用する、こういったことができようと考えております。

要望 子ども会や老人会は、多くの市民に認識され、行政からも多様な支援を受けておりますが、なぜか社会を支えている世代の集まりである青年団体には注目や支援をされていることはありません。この団体の構成員は、高校生でも、月の小遣いを使い、会費を納めて活動に参加しております。そして、活動を通して世代を超えた交流を学び、ひいては人間力や人間関係を養う機会となり、将来は地域の次世代のリーダーとして活躍していくことになっております。質問でも触れさせていただきましたが、昨今の若者事情と照らし合わせると、本当に貴重な団体であると考えます。このような団体が市内各所であられると、西宮市の活力にも必ずよい影響を与えることに間違いはないと私は考えるわけでございます。市からの支援といえば、何も金銭的支援だけではないかと思えます。各地域に青年団体を立ち上げよう啓発活動をするのも支援の一環だと思いますし、また、既存の青年団体に県や国の補助金の情報等のしかるべき情報を提供し、流すのも、支援の一環と言えるのではないのでしょうか。どうか今後とも、市内の青年団体がついてくれないよう温かく見守っていただきたい。

平成19年12月議会

Q. 平成20年4月には中核市西宮となるのですが、先進的な電子自治体として住民サービスの向上、行財政改革を今後どのような経営戦略のもと、組織体制で対応していくのか？また後継者育成を含めた専門的な業務の人材育成の取り組みについてどのような考えを持っているのか？

a. 団塊の世代の大量退職を迎えまして、本市の経営戦略として、行政経営全般にITを活用し、行政経営改革をさらに推し進める必要があると考えております。今後、これまでの情報化の歩みをさらに進めるため、全庁的な組織体制の整備の中で、業務量に応じた効率的な職員配置を行うなど、適切に対応してまいりたいと思います。

要望 来年4月には中核市西宮となるわけですから、「限られた経営資源を最大限に活用し、市民満足度の高い行政運営を行う」という経営理念のもとに、職員の意識改革を含め、先進的な電子自治体として自治体全体の経営幹部としての専任のCIO(最高情報責任者)を設置し、ITを活用した行政経営改革を積極的に推進するという経営戦略を内外に明確にすべきであると私は考えます。団塊の世代の大量退職を迎え、キャリア採用や後継者育成を含めた専門的な業務の人材育成プログラムが非常に重要であると思います。もっと真剣に早急に検討していただきたい。

Q. コミュニティバスについて、その効果は違法駐輪対策や交通混雑抑制、また高齢者や体の不自由な方が外出することによって健康保持や介護予防につながるといった福祉的効果がありますが、その様なコミュニティバスの相乗効果に対して市はどのように考えているのか？

a. コミュニティーバスは、鉄道や一般路線バスなど公共交通の利用が不便な地区におきまして、交通機能を確保するだけでなく、高齢者など交通弱者の買い物や病院、公共施設などへの移動手段を確保し、生活を守るという面からも注目されております。高齢者にとりまして、身近に利用できる交通手段がふえることは、

外出の頻度が増すことが予測され、社会参加を促進することが可能であることから、社会問題ともなっております高齢者の閉じこもり予防の効果も期待できるものと思われれます。また、外出がふえることにより、健康保持にも有効であると考えられます。コミュニティバスを含めたバスの利用促進は、これまで、バスが不便のために自転車や自動車を利用していただいていた人をバス利用に転換させ、交通渋滞を緩和するとともに、駅前の路上駐輪を減少させる効果があることは、市としても認識しております。今後、福祉面から見たコミュニティバスの効果につきましては、調査研究してまいります。

要望 行政主導の都市政策には、必ずしも採算性を第一優先に挙げなくてもよいと私は考えます。そこには当然、先ほどの御答弁にもありましたように、当該地域のニーズ、需要が必ず必要となつてまいります。採算性が安易に見込める事業でしたら、とくに民間の企業が事業展開をしていることかと思われれます。しかし、採算性がとれなくても、その都市政策を実施することによって、当該地域の経済効果や福祉効果などの波及効果が採算性以上に期待される場合は、行政サービスの一環として施策を講じるべきかと考えます。このコミュニティバス政策は、今まで運賃収支の採算性しか着眼されずに議論されてきたように感じます。今後も、コミュニティバス問題に対して、採算性のみで導入を考えるのではなく、必要性や副作用的効果もしっかりと検証していただき、都市局のみでの問題ではなく、オール西宮という大きな観点で実施に向けた積極的な議論を展開していただきたい。



Q. 西宮市における環境問題の取り組みとしての循環型社会構築に向けて、どのようなビジョンを持ち、目標設定をされているのか？

a. 昨年度、地球温暖化防止と環境の時代に対応する市内産業の活性化を目的とし、利用可能な新エネルギーの導入方策等について検討し、これを西宮市地域新エネルギービジョンとして取りまとめたところです。このビジョンの具体的な推進方策の一つとして、家庭や事業所で排出される食品系廃棄物を利用する新エネルギーシステムの導入を掲げております。その中で、バイオマス燃料製造並びにそれを活用したクリーンエネルギー自動車の導入については、今後、産学官民交流事業の中で、資源量の把握や回収の仕組みづくりの検証を始め、その活用について検討していくこととしております。

要望 本市では、天然ガス車両を導入されておりますが、天然ガス車両は、導入コストが高く、燃料自体も循環型社会の考えに一致するかどうか、疑問を持たざるを得ません。西宮市内に天然ガスを補給できるガススタンドも、南部のみに2カ所と少なく、仕事の効率性を考えるといかがなものでしょうか。先ほど当局は、循環型社会の構築を推進していく旨の御答弁をされております。全国に先駆けて崇高な宣言(環境学習都市宣言)をされたのですから、どうか環境先進都市として積極的に環境問題に取り組んでいただきたい。